



統計局統計調査部経済統計課動向統計企画係長

飯嶋 咲也

Iijima Sakuya

平成22年 4月 総務省採用
統計局統計情報システム課情報提供係
平成24年 4月 統計局統計調査部経済統計課研究分析係
平成26年 7月 統計局総務課国際第二係
平成27年 4月 統計局総務課国際第一係
平成28年10月 統計局統計調査部国勢統計課
労働力人口統計室審査発表第一係
平成29年 4月 統計局統計調査部国勢統計課
労働力人口統計室統計専門職
令和 2年 4月 統計局統計調査部経済統計課
動向統計企画係長

世界を読み解くためのツール、統計

今、世の中で何が起きているのか？

現職ではサービス産業動向調査という月次の調査の企画実施を担当しています。調査の対象は、情報通信業や宿泊・飲食、医療・福祉など、幅広い産業の企業や事業所になります。調査事項は売上高と事業従事者数のみとコンパクトな調査ですが、毎月産業別にも結果を公表しており、GDPの四半期速報などに利用されています。

2020年は感染症拡大の影響で、サービス産業全体で一時売上高が大きく落ち込みましたが、その後徐々に回復傾向を示していることや、産業別の影響の大きさが目に見えて、改めて統計とは「今世の中で起きていること」を具体的に数値として把握するものなのだなと思いました。

また調査対象の方からは「調査回答どころではない」という切実なお声を頂戴することも……。そんな厳しい状況の中でも回答して下さる方のためにも、回答しやすい環境を整え、実情を正確に反映した統計となるよう努めなければならないと思っています。

統計分野は意外と国際派!?

統計局が実施する統計調査の対象は、基本的には日本国内に所在の方や企業・事業所になるのでドメスティックな印象があるかもしれませんが、実は国際的な仕事もいっぱい！ 国際比較可能性を高めるために統一的手法や分類を検討したり、人口や物価、経済統計など、分野ごとの国際会議で各国からの出席者と意見を交換したり、国際協力の一環として研修講師や専門家として派遣される機会も。

私自身は、国際会議開催のために会場のホテルを走り回ったり、会議出席のためにニューヨークの国連本部やジュネーブのILO本部を訪問したりと、入省当初には思いもよらなかった経験をさせてもらいました。

日々の業務でも海外からの問合せメールに対応する機会や他国の統計機関のウェブサイトを閲覧する機会があり意外と国際派な統計部門ですが、希望者を対象に英語の研修が実施されるなどバックアップもばっちり。チャレンジしてみたい人、お待ちしております！

PRIVATE TIME

読書、映画、音楽とインドアな趣味が多めですが、気になるものは見てみたい！ やってみたい！ と突然バンジージャンプを跳んだり、斧を投げたり、古墳を見に行ったりもします。また、アマチュア合唱団（今は休止状態ですが）に所属しており、いろんな職業・バックグラウンドの友人たちと歌っています。楽しい！

WEEK SCHEDULE

MONDAY

各種照会の締切りなど今週の予定を確認して業務スタート！

TUESDAY

調査委託先と打合せ。調査業務の進捗や回収状況を確認します。

WEDNESDAY

定時退庁日。少し急いで仕事を片付けて合唱団の練習へ。

THURSDAY

照会の回答をとりまとめたり、新たな照会を関係先にかけたり。

FRIDAY

今週の業務を片付けて、颯爽と退庁（できたらいいな）。



統計局事業所情報管理課統計専門職

辻 健太

Tsuji Kenta

平成25年 4月 総務省採用 統計局統計調査部国勢統計課
労働力人口統計室審査発表第一係平成27年 4月 併任 統計局統計調査部国勢統計課
労働力人口統計室企画指導第三係平成29年 4月 統計局統計調査部消費統計課物価統計室
企画指導第一係平成31年 4月 統計局統計調査部消費統計課物価統計室
価格調査システム係

令和 2年 4月 現職

いろいろな業務をいろいろな人と

「羅針盤」作成のための名簿整備

政府統計は、日本の社会経済の実態を把握し、適切な施策を実施するための道しるべとなる「羅針盤」だと言われます。この「羅針盤」作成のため統計調査が実施されますが、調査対象の選定に当たっては、全体を網羅した名簿が不可欠です。

企業や事業所が対象の場合、日本中の企業・事業所を網羅した名簿が必要ですが、現在、日本にある事業所は600万を超え、日々、改廃もあります。これら全てを名簿化するなど、気の遠くなる話に思えます。しかし、どうにかやらないと「羅針盤」は作れません。

私の所属する事業所情報管理課では、各種統計調査の結果や、労働保険や登記情報といった行政記録情報、企業ホームページなども手がかりに、企業・事業所の名簿情報を最新化し、「事業所母集団データベース」として整備しています。もちろん、一人でできる作業ではありません。関係各所と連携しながら、「羅針盤」作成の基盤となるデータを、みんなで地道に整備しています。

文化祭にも似た達成感

私は、統計局で、いくつかの統計調査に携わってきました。一言で「調査に携わる」といっても、その関わり方は様々です。調査の結果を審査・公表する業務にも携わりましたし、調査を実施するための企画業務や、調査の実施を支えるシステム基盤の担当となったこともあります。統計表のチェックや、システム設計書のレビュー、時には調査用品を詰める段ボールの調達まで、同じ統計局の中でも多岐にわたる業務を経験しました。

また、準備から実施まで2年間携わった「平成28年社会生活基本調査」の企画業務では、系のメンバーを始め、課内や他部署、さらには地方公共団体など、多くの人と関わりながら、5年に一度の大イベントの成功に向け、まい進しました。みんなで同じ目標に向かって突き進んだ調査を無事やり遂げた際には、文化祭のような達成感がありました。

総務省では、様々な業務が経験できます。皆さんも、興味があればぜひ目指してみてください。きっと充実した業務に出会えます。

PRIVATE TIME

以前は、ボウリングをしたり、テレビゲームをしたり、友人と飲み歩いたりしていましたが、最近ではコロナ禍、そして、大好きな子供たちとの時間に充てるため、自分の時間はあまりなく、細々とテレビゲームをやる程度になってしまいました。その分、昨年は1か月の育児休業を取得するなどして、今だけの子供との時間をたっぷり満喫しています！

Q 総務省を志望するようになったきっかけは何ですか？

A 正直なところ、官庁訪問の際にふらっと統計局の説明を聞いたのが最初でした。大学時代に少し統計に触れていたこともあり、選択肢の一つとして、受けてみることに迷いはありませんでしたが、志望の度合いは、官庁訪問が進むにつれ強くなっていきました。「面接官が温かった」という感想は、改めて客観的に見つめ直すと、若干浅はかにも思えますが、実際に入省した今となっては、この温かな環境を見抜いた自分を褒めてあげたいと思うほどです！

Q 今後取り組んでみたい仕事はなんですか？

A 今までの業務を振り返ってみると、一般の方からのデータの問合せ、調査の実施に向けた地方公共団体との議論、システムの仕様に関する委託業者との調整など、様々な人とのやりとりが印象深く思い出されます。統計は、作って終わりではありません。それを利用する人がいてこそ価値があります。人のためになる統計を、人とのコミュニケーションを大切にしながら作る仕事に、今後も取り組んでいきたいと思っています。





統計局統計調査部国勢統計課課長補佐

関野 秀峰

Sekino Hidemine

平成8年4月 総務庁採用 統計局総務課人事係
 平成11年4月 統計局統計調査部消費統計課審査発表係
 平成14年4月 統計局統計調査部国勢統計課
 労働力人口統計室企画指導第一係
 平成15年4月 統計局統計調査部調査企画課
 精度管理情報官
 平成16年4月 統計局統計調査部国勢統計課
 労働力人口統計室企画指導第一係長
 平成17年4月 独立行政法人統計センター製表部
 事業管理課上級製表職
 平成18年10月 内閣府経済社会総合研究所
 国民経済計算部企画調査課研究専門職
 平成21年1月 統計局統計調査部消費統計課審査発表係長
 平成23年7月 統計局総務課人事係長
 平成24年10月 統計局統計調査部経済統計課解析提供係長
 平成26年4月 統計局統計調査部経済統計課
 審査発表第二係長
 平成26年10月 統計局統計調査部経済統計課課長補佐
 平成30年7月 統計局統計調査部国勢統計課
 労働力人口統計室課長補佐
 令和2年4月 現職

CAREER INTERVIEW

キャリアとともに変わる役割とやりがい

係員時代

まずは経験、仕事を通じて新しい世界を知る

ご縁があり総務庁統計局に入局し、家計収支に関する統計の集計・公表や、完全失業率等を算出する調査の企画・実施などの業務に携わりました。特別な知識はありませんでしたが、統計に関する長期の専門研修も受けられ、安心して業務に取り組みました。それまで意識していなかった統計数値を通して世の中を見ることは実に新鮮で、仕事をする中で様々な新しい世界を知ることができ、貴重な、充実した時期を過ごしました。

係長時代

実務を担うチームの、リーダーとしての役割

係員時代に携わった業務の多くに、係長として再び担当し、調査の実施や統計の公表を行うチームの、実務的なリーダーとして取り組みました。係員時代よりも一段重い責任に身の引き締まる思いを抱きつつも、振り返れば大きなやりがいがありました。一人ではできない多くの業務を進める上で、チームプレーの大切さを何より噛みしめた日々でした。人事交流で、他府省等の統計部門で働く機会を得たことも、良い経験でした。

今、そしてこれから

担当業務のマネジメント力が求められる立場

現在は、課長補佐として、昨年実施した日本最大の統計調査である国勢調査の集計・公表を担当しています。たとえ新型コロナウイルス感染症のような大きな出来事に見舞われることがあっても、我が国の基盤情報となる統計を絶やすことなく作成する必要性・重要性は、今もこれからも変わりません。平常ではない中でも使命を見失わず、担当内外に広く目配りし、円滑に着実に推進する役割が求められる立場を実感しています。



MESSAGE

このパンフレットをご覧になった皆さんには、総務省の仕事が実に多岐にわたり、懐の深い職場であることがわかりただけだと思います。私は主に統計の仕事をしてきましたが、この一分野をとっていても業務の裾野は広く、様々な経験をしながら、個々人の適性を踏まえたキャリアを積んでいくことができる職場です。あなたにぴったりのやりがいがあり、きっとあります。ご縁があって一緒に働けることを、楽しみにしています。

行政評価局 上席評価監視調査官(内閣、総務等担当)

塩見 雄介

Shiomi Yusuke

平成13年 4月 総務省(東北管区行政評価局)採用
 平成14年 4月 行政評価局総務課
 平成15年 4月 行政評価局評価監視官付(農林水産、環境)
 平成16年 4月 沖縄行政評価事務所評価監視調査官
 平成18年 4月 行政評価局評価監視官付
 (独立行政法人第二・特殊法人等)
 平成19年 4月 行政管理局管理官付(行革総括担当)
 平成21年 4月 行政評価局総務課総括係長
 平成23年 3月 内閣府主査(東日本大震災緊急災害対策本部
 被災者生活支援チーム)
 平成23年 7月 行政管理局主査(農林水産省担当)
 平成25年 4月 内閣府本府地方分権改革推進室主査
 平成27年 4月 大臣官房秘書課人事第一係長
 平成30年 5月 内閣官房内閣人事局(定員管理専門官)
 令和2年 7月 現職

CAREER INTERVIEW

“行政”というTrackを駆け抜けて

係員時代

On your mark

地方局採用後、国会対応等を担う総括業務を通じて、行政評価という仕事の全体的な動きを知り、規制の新設審査、行政不服審査法等の行政制度の企画立案を担う行政管理局の業務を通じて、各府省の組織体制や、法律改正の流れを学ぶことができました。これらの濃くも苦くもある経験により、気づけば、スタートラインともいえるべき、行政評価という仕事の現状や役割を考えられる素地がつくられていたのです。今思えば、ですが…。

係長時代

Get set!

政権交代もあったこの頃から「この仕事、必要?」といった雰囲気が強まった気がします。その代表格たる“事業仕分け”で、行政評価は「抜本的機能強化」と判断され、その期待の高さを痛感したことを覚えています。それも束の間、東日本大震災では他府省職員と、地方分権では自治体職員と、今ここにある危機・難題に取り組み、振り返れば、自らの資質を高める準備ともいえるべき、経験が重ねられました。結果として、ですが…。

今、そしてこれから

Go!!

その後、組織管理の要諦にも触れ、ようやく行政評価に携わることができ、今思うことは、行政は、人が、組織の中で、時代の流れを感じつつ進んでいて、“行政評価”は、その現状を絶えず確認しながら着実に進むよう支援すること、かもしれない、と。

これからも、この“行政評価”という、自らが考える理想へと現実を導く仕事を通じて、それぞれのレーンを走る仲間とともに、ゴールという理想を目指して、一緒に駆け抜けていきたい。



MESSAGE

なぜ、“行政”というTrackを走ることになったのか? 思い返せば、最初は単純に「世の不正を正したい」と法学部に進み、法律を学ぶうちに「(バブル崩壊後の)日本のこれからを考えたい」と行政に関心を抱き、就活中に、行政評価(当時は行政監察)という仕事に、必然と巡り会ってしまった! のです。自らが考える理想を追い求めれば、数多ある仕事の中から、そこへとつながる仕事に、必然的に巡り会えることでしょう。